

## インタビュー・制新政意

小松隆二 東北公益文科大学学長予定者に聞く

# 公益学、それは二十一世紀を支える新しい力

## 東北公益文科大学 開学を目前にして



二〇〇一年四月、日本で初めて公益学に挑戦する東北公益文科大学が酒田市に開学する。自分一人のため”、会社や組織のため”という考え方を超えた、”地域・社会・地球全体のため”の新しい”公益”の考え方。その研究・実践の舞台となる大学の理念・意義について学長予定者の小松隆二氏に聞いた。

動とは別個に公益学を学び、公益のあり方を身につけていくことによって、企業も社会貢献を渋々行うのではなくて、当然のように行うようになる。公益学によって生活のあり方も自然に変わってゆくことが期待されます。

山形県の中でも、とりわけ庄内の地で公益学を学ぶ意味は。

公益学とは、どのような学問でしょうか。

小松 人間を見るにも社会の仕組みを見るにも、既存の学問だけではどうしても漏れや不十分な部分が出てきます。経営学や経済学では、非営利の活動、非経済的な活動の部分が抜け落ちがちです。それが公益学からアプローチすれば、もっとやりやすい。経営学や経済学と対立するのではなく、そこに新しい側面を付け加えることによって、総合的に人間や社会を見ることができるようになる。

そのようなチェック機能とか補足するような役割から着実に研究を積み重ねて、公益学の体系を削り上げることが必要であると思

います。

公益学の成立によって、社会や私たちの生活にどのような影響を与えるのでしょうか。

小松 公益学には、良い意味での実学的な面があります。公益学は単に研究をするだけではなく、これを土台にして国民全体の生活のあり方が変わっていく。例えば日本で、企業や経営者が公益活動、社会貢献活動を行わなくとも、特に指弾を受けることはありません。欧米の場合は社会貢献をしていない経営者は批判されます。また、普通の人々の生活の中に、寄付やボランティア活動が当たり前のようになっていきます。一人ひとりが経済活

小松 公益学はどこにでも成り立ち得るのですが、庄内が公益学にたいへんふさわしい土地であるということは言えると思います。公益の伝統、あるいは景観や自然のすばらしさからして、公益学を学びやすい地域です。

公益学では、机に向かう学問と同時に、現場「フィールドワーク」を重視していることと考

えております。様々な公益の歴史や現状の動き、事例などを現場で取り組んでみるという勉強も進めたいのです。そのための事例がここにはたっぷりあります。歴史的には山居倉庫や松ヶ岡の開墾場。最近の庄内地方の企業の中に公益活動を実際に行っているとか、社は「会社のスローガンに公益を謳っている例もあり。知らず知らずのうちに公益の考

東北公益文科大学の完成予想図



え方が広まっている地域だと思っています。

**東北公益文科大学の特色は、**

小松 通常の大学と比較して教員数が多く、しかも女性の比率が高いこと。また、「現場上がり」の先生が多いのです。「現場上がり」というのは、例えばボランティア活動の分野で活躍している人とか、国連で西アジア中心に麻薬対策に従事して国際貢献に活躍していた人などです。公益というのは机上の学問だけではないので、「現場上がり」の人が必要なのです。

カリキュラム面では自然科学と社会科学を

融合させている点の特徴の一つです。この大学では、文系の人も基礎的な理系科目を学びます。語学教育にも力を入れており、耳や口を通して身に付く語学教育を目指しています。

また、社会福祉の母国の一つであるニュージーランドに関しては、この大学が国内で最も充実した人材も文献も持つことになると思っています。いずれ、ニュージーランド研究所を創るつもりです。

キャンパスも六万坪の四方を門扉を造らないでオープンにしています。図書館は市民に

開放して自由に使っていただくことにしています。正規の講義のいくつかも公開します。大きな目標・使命の一つが「大学町を創る」ということですので、市民の方からも「自分たちの大学」という感覚を持っていただけるように工夫しています。

**この大学に来春集う学生・研究者・市民に期待を一言。**

小松 「初心、忘れるべからず」です。「大学町を創ろう」という理想を忘れてはならないと思います。学生もこの大学の理念や目標を理解して、一緒に公益学を創る一端の役割、大学創設の一翼を担ってもらいたいです。

この「学びの杜」に市民の皆さんも加わっていただいで、一歩一歩踏み固めていきたいと思えます。

**小松 隆二**

1938年、新潟県出身  
慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程修了（経済学博士）  
同経済学部助手、同助教授を経て、同教授  
1993年より慶應義塾常任理事  
来春、東北公益文科大学初代学長に就任予定  
問い合わせ先  
東北公益文科大学設立準備委員会  
〒998-0044  
酒田市中町二丁目5-19  
TEL 0234-26-5822  
FAX 0234-26-5750